

# 令和6年度第3回石狩市総合戦略推進懇話会 議事録

【日 時】 令和7年2月6日（木）10：30～12：00

【場 所】 石狩市庁議室

【出席者】 14名（17名中）

役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠
会長	角川 幸治	○	委員	尾方 哲	○	委員	釣本 峰雄	○
副会長	住吉 赴夫	○	委員	河野 明美	×	委員	中野 勝也	○
委員	秋田谷 順子	○	委員	小山 玲子	×	委員	野村 彩夏	○
委員	石上 千里	○	委員	佐々 茉奈美	○	委員	林 敏樹	○
委員	石田 琢磨	○	委員	白井 かの子	○	委員	船木 幸弘	○
委員	伊藤 朱美	×	委員	高宮 則夫	○			

※正副会長を除き、あいうえお順

【オブザーバー】 北海道石狩振興局地域政策課長 杉村 勝彦

【事務局】 企画政策部長 小島 郁也、企画課長 宇野 博徳  
企画課主査 吉田 有絵、企画課主任 山崎 将平

【傍聴者】 0名

## 【角川会長】

本日は時節柄お忙しいところご出席をいただき、誠にありがとうございます。

定刻となりましたので、ただ今より「令和6年度第3回石狩市総合戦略推進懇話会」を開催いたします。雪も1月はほとんど降らない状態で、私も除雪の仕事に関わっておりまして、これだけ雪の少ない1月はなかったのですが、帳尻が合ってくるもので、2月に入って大雪が続いています。今朝は落ち着いており、とりあえずは良かったと思っています。

さて、前回第2回ということで、懇話会の中でも色々な意見が出て、その後修正をしております。石狩市は、産業、工業の部分で注目されており、これまで以上に面白いと思います。懇話会でさらなるアイデアを出していただき、第3期石狩市創生総合戦略を作り上げていきたいと考えておりますので、ご意見を頂戴したいと思っております。

本日、伊藤委員、河野委員、小山委員が欠席となっております。

本日の会議ですが、お手元にお配りした「次第」に沿って進めさせていただき、おおむね12時頃を目途に終了したいと考えておりますので、ご協力をお願い申し上げます。

それでは早速次第に沿って進めてまいります。事務局から説明願います。

## 【事務局（宇野課長）】

まず、本日、ご出席をいただいておりますオブザーバーをご紹介します。石狩振興局地域創生部長の矢野様が体調不良のため、代理でご出席いただきました地域政策課長の杉村 勝彦様です。

## 【オブザーバー（北海道石狩振興局地域政策課長 杉村氏）】

地域政策課課長の杉村と申します。本懇話会の第1回に参加させていただきまして、第2回目議論が大盛り上がり上がったと聞いております。皆様の議論を聞いて勉強させていただきたいと存じます。よろしくお

願いいたします。

**【事務局（宇野課長）】**

杉村課長、ありがとうございます。

それでは次第2、議題に進みます。まず本日の資料のご確認をお願いいたします。皆様のお手元にお配りしております資料ですが、事前に送付しておりました「次第」に訂正がございましたので、お手元の「次第」を活用していただければと思いますのでよろしくをお願いいたします。そのほか事前にお送りしております、資料1「(案)第3期石狩市創生総合戦略」、資料2「第2回総合戦略推進懇話会以降の修正箇所について」、本日机上配布しております資料3「第3期石狩市総合戦略(仮称)の策定に寄せられた意見と検討結果について」、以上の資料につきまして、本日お持ちでない場合はお知らせください。

＜資料ない方へ配布＞

それでは、資料にそってご説明させていただきます。

まず資料3「第3期石狩市総合戦略(仮称)の策定に寄せられた意見と検討結果について」をご覧ください。令和6年12月16日(月)から令和7年1月17日(金)までの1か月間、意見を募集し、2名から18件の意見の提出がございました。主なものとしては、用語の説明や文言、表記の修正を求めるものが8件、掲載した各種個別の施策項目に関するものが8件、その他の質問が2件です。意見の対応としましては、意見を原案に反映させ、採用とするものが5件、意見を原案に反映せず、不採用とするものが3件、その他の意見等とするものが10件ございます。この内、原案の一部を修正したのものについては、そのほかの修正と合わせて後ほど説明いたします。また、「意見の要旨」「検討結果」の詳細につきましては、本資料によりご確認ください。

ここからは主査の吉田から説明させていただきます。

**【事務局（吉田主査）】**

続きまして、総合戦略(案)についてご説明いたします。

昨年11月14日に第2回懇話会を開催し、案をお示しいたしましたが、その後、委員会報告やパブコメ等を踏まえ、何点か修正したところがございます、「資料1」の赤字部分が修正のあった部分であります。

まず資料2「第2回総合戦略推進懇話会以降の修正箇所について」における、赤字記載部分を説明させていただきますので、「資料1」「資料2」を合わせてご覧いただければと思います。黒字のみで書いてある部分は、修正の中でも表記の変更に係る部分でありますので、本資料によりご確認ください。これから「資料2」のNoと、「資料1」のページ数を申し上げて、順々に説明いたします。

まずNo2.冊子は表紙ですが、サブタイトルを「「まちの持続」に向けた、いしかりPRIDEの醸成」と設定します。現在総合計画の期間中であること、1期、2期と連続している計画であること、中期展望の2040年までを見据えた計画であるということを踏まえ、2期と同様のサブタイトルを設定しています。また、表紙の図についても大きくして色を変更しています。

次に、No3.冊子は7ページですが、図表に都市像と人口ビジョンを追加することで、当該1ページで総合戦略の全体像を把握できるように修正しました。

次に、No4.冊子は9ページの項目(1)の具体的な事業について、こちら黒字となっておりますが、本来は表記修正ではないので、赤字にするべきでしたので、修正いたします。こちらですが、「空家活用促進」を削除し、「空き家事業」は冊子25ページ「(7)移住・定住の推進」に集約しております。

次に、No5.冊子は9ページの項目(2)の文章についてですが、元々あった文書「また、地域内で暮らす、多様で多世代の誰もが地域社会の主体者として支え合い、コミュニティの活性化に資する活動を推

進する。」を削除しました。当該項目は新現役世代に係る事業が主であり、多世代を対象とした取組を当該項目では行っていないためです。

同項目の具体的な事業については、社会福祉協議会で行っている事業については削除し、「日本版C C R C構想」は戦略目標5-(7)移住・定住の推進に集約、「地域包括ケアシステム」は既にシステムを構築済みであることから、システムの推進に変更、「通いの場に対する支援」は地域にある高齢者が集まる場であり、市の委託を受けた社会福祉協議会が運営の支援をしていることを踏まえ、新たに追加しています。

次に、No6. 冊子は12ページの項目(3)の具体的な事業についてですが、「産後ケア(宿泊型・日帰り型・訪問型)の助成」を「石狩市産後ケア事業(宿泊型・日帰り型・訪問型)」に、「各健診旅費の補助」を「石狩市妊産婦健康診査通院交通費等助成交付」にそれぞれ変更しています。それぞれHPに記載されている正式名称にしております。

次に、No7. 冊子は15ページの項目(3)の具体的な事業についてですが、「学校給食における地場産品の活用」を「学校給食における「いしかりデー」の実施」に変更しています。これは次期石狩市教育プランでも、学校給食において石狩産食材等を積極的に取り入れる「いしかりデー」を指標としており、特に「いしかりデー」の実施を重点としたためです。

次に、No8. 冊子は16ページの項目(3)の具体的な事業についてですが、「無人配送の取組の推進」を削除しました。これは現時点において石狩湾新港地域内で無人配送の取組を実証する予定はないためです。

次に、No9. 冊子は17ページの項目(4)の具体的な事業についてですが、「マイクログリッドの推進」を削除しました。これはNo8.と同じく現時点において石狩湾新港地域内でマイクログリッドの推進を実証する予定はないためです。

次に、No11. 冊子は22ページの項目(2)の具体的な事業についてですが、「生活習慣病予防などの事業」を「健康づくり事業」に名称変更したほか、モルックの実施を追加しています。モルックは、令和6年7月に厚田地区にてモルック大会を実施しており、今後もモルックの推進のため追加したものです。

次に、No12. 冊子は23ページの項目(4)の具体的な事業についてですが、「空家活用促進」を削除し、「新規就農者育成総合対策事業」を追加しています。「空き家事業」は冊子25ページ「(7)移住・定住の推進」に集約しております。「新規就農者育成総合対策事業」は、新規就農者に対する事業を「新規就業者支援助成」とは別建てで追加したものです。

次に、No13. 冊子は24ページの項目(5)の具体的な事業についてですが、担当課の実務にも合わせ、前回の記述よりも内容を簡潔に修正しています。K P Iについては、事業の達成時期を明確にするため、「R11年時」を「令和11年度末まで」に変更しています。

次に、No14. 冊子は25ページの項目(8)の具体的な事業についてですが、「G I G Aスクール構想推進事業」を削除しています。これは同項目における詳細な実務のみ残すこととしたためです。K P Iについては、事業の達成時期を明確にするため、「R11年時」を「令和11年度末時点」に変更しています。

次に、No15. 冊子は27ページ項目(2)のK P Iについてですが、「市内オンデマンド運行事業および通勤オンデマンド運行事業の合計利用者数 5年間で15万人」を「市内A I デマンド運行事業および通勤A I デマンド運行事業の合計利用者数 5年間で10万人」に変更しました。

当初、通勤デマンド10,000人、市内オンデマンド15,000人を目指し、挑戦的な目標として年間30,000人の利用で指標を作成したものの、担当課との協議を踏まえ、年間20,000人を目標としました。また、実務に合わせてオンデマンドの名称をA I デマンドに変更しました。

次に、No16. 冊子は29ページ項目(7)のK P Iについてですが、「避難所運営訓練の実施箇所5年間で40箇所」を追加しました。前回の議事録の送付文書でもお知らせいたしましたが、前回の懇話会の意見も踏まえ、防災対策事業も重要であることから、防災対策事業の取組である当該事業をK P Iとして追加し

たものです。

次に人口ビジョンについてですが、No17. 冊子は 33 ページ「図表 4-2 自然増減と社会増減の推移」を追加しました。これは、2000 年以降の自然増減と社会増減の状況を把握しやすくし、2018 年以降の社会増が分かりやすくなるよう追加したものです。

次に、No18. 冊子は 49、50 ページ図表下の米印についてですが、「国勢調査は常住人口に関する調査であるため、上記の産業人口と特化係数は、石狩市の常住人口について集計したものを意味する」という一文を追加しました。当該数値は石狩市の常住人口について集計したものであり、そのことが分かりやすいよう追加したものです。

次に、No19. 冊子は 60 ページ（イ）の文書内にあります「昼間人口」についての説明と、本市の昼間人口について追加しました。懇話会意見を踏まえ、昼間人口に係る政策も重要であることを鑑み、追加したものです。

資料 2 の最後、No20. 冊子は 26 ページの数値目標についてですが、前回の懇話会にてお諮りし、懇話会での意見を踏まえ、課内にて再検討した結果、令和 2 年～令和 5 年の 4 年間の同目標の平均回答率が 26%、中期展望にて、「20 代の転出超過を 50%軽減する」としていることから、20 代の転出しても戻ってきて住みたいと思う人の割合を現状の平均回答率から倍増することを目標とし、50%と設定しました。

以上が、前回懇話会からの変更点となります。

続きましてパブリックコメントを受けての変更内容についてご説明いたします。

資料 3 をご覧ください。1 ページ No 3、冊子は 1 枚開いていただいた目次の欄ですが、ページ数がないと見づらいという意見を踏まえ、検討の結果、各項目にページ数を入れております。また、冊子 8 ページから 29 ページには、該当戦略目標がわかるように右下、左下に記載を追加しています。

次に、1 ページ No 4. 冊子は 2 ページ（3）の②ですが、4 つの基本目標がわかりづらいという意見を踏まえ、検討の結果、表記を変更しています。

次に、2 ページ No 8. 冊子は 3 ページ（6）の②ですが、達成状況をどのように公表等するのか明記してほしいという意見を踏まえ、検討の結果、冊子 4 ページ③にて「広報いしかりや本市ホームページ等により」という一文を追加しています。なお、現在の冊子の表記は「本市ホームページ」となっておりますが、これは冊子送付後に検討の結果、表記を修正したものであり、この後の本部会案にて反映します。

最後に 2 ページ No 9. 冊子は 4 ページ（7）の 6 行目ですが、「地方創生コンシェルジュ」「地方創生カレッジ」の内容がわからないという意見を踏まえ、検討の結果、冊子 6 ページにて用語解説を追加しています。

説明は以上です。

#### 【角川会長】

ただいま、事務局から説明がありました。

まず、前回懇話会以降の修正箇所、赤字で修正した部分について、ご意見等がありましたらご発言願います。

<意見等無し>

それでは修正箇所についてはご承認いただいた、ということで進めます。

この後、冊子に基づいてお話させていただきませんが、本日は産官学の色々な方が集まっており、それぞれのご意見をいただきたいと思っておりますので、私から各委員をご指名させていただきます。項目毎に指名させていただき、最後お時間がありましたら、自由にご発言をいただくような形で進めさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

まずNPO法人シャロームの釣本委員にお尋ねいたします。戦略目標1に関してですが、市民や団体による各種講座や集会など高齢者や子どもたちを対象とした活動や今後の地域活動等に期待する部分をいただけますか。

**【釣本委員】**

まちづくりの一環として、地域の情報誌を発行しているのですが、なかなか思うように採算が取れず、数年前からフードバンクを始めました。当事業は非常に周りからの反応が良く、最近はこちらに重点を置いて活動しています。今まではNPOといっても、ほとんど個人的に活動していたものですから、自宅の玄関ロビーを使っただけの活動でありましたが、取扱量も増えたため、本格的な活動のために地元のお弁当屋さん提携して、そちらに場所を移して事業を続けています。またNPOの代表も、30年間代わってくれる人がいなかったものですから、ずっと私が代表を続けていましてけれども、今年の4月ぐらいを目途に移行しようと思っています。

私は市民カレッジに関わっているため、そちらのご意見を申し上げたいのですが、市民カレッジの年間目標が130人という設定についてです。市民カレッジの委員会でも話になったのですが、登録者数年間130名、これは人口から見ると、あまり少ないかなと感じます。市民がなかなか関心を持っていただけないということが、いつも委員会で問題になっておりますが、他のまちにはない特色のある集まりであり、市役所や市民カレッジの皆さんと協力して、登録者数が増える、また受講者も増えるという形に持っていきたいと思っておりますので、お知恵を拝借できたらと思っております。

以上です。

**【角川会長】**

ありがとうございます。事務局から市民カレッジ登録者数について、何かありますでしょうか。

**【事務局（宇野課長）】**

釣本委員ありがとうございます。市民カレッジは釣本委員が関わってらっしゃるように、市民が主体で企画し、市民が講師となる、素晴らしい生涯学習の事業だと思っております。130人という数字につきましては、私どもとしても、教育委員会も含め、この130人よりも多く登録していただきたいと考えてございます。よって、関係機関と連携しながら、周知も含めて、対応と対策をし、130人はあくまでもKPIの目標でありますので、達成はもちろん少しでも登録が多くなるよう考えてございます。

以上です。

**【角川会長】**

ありがとうございます。戦略目標1につきまして、新現役世代というのは前向きでいいですね。活躍の場をお互いに協力しながら作っていく、ネーミングも良いと思うのですが、そういったところをより推進して、新現役世代の方に活躍の場を設けていくようにしていきたいと思っております。

続きまして戦略目標2に関してですが、市民代表ということで、秋田谷委員から見た最近の子どもたちや子育てを取り巻く環境はどうでしょう。

**【秋田谷委員】**

私も今子育て中で、小学生と中学生の子どもがいます。私は石狩がとても子育てしやすいと思っており、最近ですと、子どもの権利条例が制定されるということで、色々なイベントも増えてきていると感じます。私は生まれも育ちも石狩であり、この石狩の環境が当たり前なので、他と比べようがないのですが、

石狩市で色々なイベントをやるものの、そこに参加する人は結構限られています。だから、こういう集まりとかに来ない人はどうしているのかなと思いますけど、そこをすくい上げるのは難しいと思います。でも、そこに来る人は、みんな石狩市は色々なことやってくれているよね、と話して楽しく参加しています。

これからもどんどんそういう事業は続けていただきたいという反面、中学生、高校生が楽しめるまちではないのかなと思っており、そういったおとなになる手前のこどもたちも、何か楽しい思い出を作って、もっとこの石狩が好きだという思いを育てていきたいと思うので、そういったことを市と協力して何かをやっていただけたらなと思います。

こんなもので申し訳ないですけども、以上です。

#### 【角川会長】

ありがとうございます。私も子育て世代であり、小学生のこどもがいます。個人的な意見ですが、ハード的もソフト的もある程度充実していると思うのですが、その告知がもう少しかなと感じます。周知しきれていないというか、HPには出ているのだけど、それを見において、という仕組みがまだまだできていないのかなという感じがしています。その辺も今後の課題かなと思います。

それでは、先に進めます。

次は冊子の14ページ、戦略目標3について、石上委員にお尋ねいたします。若者の職場定着に係る項目がありますが、若い労働者から労働環境や要望について、今後の若者の労働に関して期待する部分をお聞かせください。

#### 【石上委員】

この冊子の34ページなどの資料見ても、若者が一度石狩市から流出してしまう、というところをあらためて感じたところでありまして、計画の中でも若者にスポット当てた施策が一つでもあるというのは、良いことかなと思いました。

それで日々話をする中で、今の若者の少しでもダメだったらとか、少しでも嫌なことがあったら、次の職場へという、その次へ次へという気持ちは、私の頃や、諸先輩方の頃と違うのかなと実感しております。石狩の企業に来ていただいて、そこで長く勤めていただけるようなアプローチというのは、今後大事になってくるのかなと感じたところでありまして。

ざっくりした意見で恐縮ですが、以上です。

#### 【角川会長】

ありがとうございます。時代によって若い人達の考え方や行動特性は違うと思います。規模的には大きいものではないかもしれませんが、石狩市に魅力のある職場はあります。私の個人的な考え方ではありますが、若い人を呼ぶためには、若い人の考えに寄せていくぐらいのことをすれば定着に繋がると思いますが、「入って来いよ」みたいなスタンスだとダメかなと思います。

続きまして同じく戦略目標3の農業に関わる部分から、佐々委員から見た、最近の農産品の販売に関することや農業を取り巻く環境を聞かせていただければと思います。

#### 【佐々委員】

農業をとりまく環境でいうと、最近で言えば、キャベツや、白菜、長ネギなど、すごく高かったですよ。「とれのさと」に、私も出荷をしていましたが、スーパーとかで、キャベツ一玉500円とか、白菜も700円、800円というのも見ていましたが、「とれのさと」で結構安く提供させていただいて、他の出荷者さんとも合わせても、平均大体白菜一玉300円から400円ぐらいで提供していました。その

おかげで「とれのさと」自体も集客が多かったようで、「とれのさと」の認知度や、野菜でいえば、例えば、誰誰さんは何を作っている、何がおいしい、というのも段々知れ渡ってきたのかなというところですね。今回総合戦略の目標も拝見させていただいて、この目標であれば、達成もしやすいだろうと思った次第です。

#### 【角川会長】

ありがとうございます。次に観光協会の野村委員に伺いますが、ふるさと納税も盛況で忙しいのではないかと思います、他の地域から人を呼び込むという観光施策の中で、特に最近のインバウンドはすごいですよね、その辺りのお話やトピック、今後の観光に向けて期待する部分をお話願います。

#### 【野村委員】

インバウンドの関係ですと、今年の年明けぐらいから、毎日のように、観光センターに一組か二組はアジア系のお客さんがいらっしゃるという現象が起きています。コロナが終息してから、たまに海外のお客さんがいらっしゃるってことはありましたが、今は大体バスでお客様が来られています。

それで目的が一体なんなのかが気になって、主要な観光施設、たとえば「はまなすの丘公園」や「石狩灯台」という施設が、今冬季でたどり着くこともできない状況なのに、何を目的に来ているのかなということで、前いらっしゃるお客様、二人組の中国人の男性でしたが、何を目的に来たのかをきいてみたところ、中国のSNS、Facebookとかそういったものではなくて、中国本土のSNSで石狩が紹介されているとのことで、どこが紹介されているのかを見せてもらったら、石狩の海岸、真冬の何も無い状態で、雪が少し積もっていて、割と荒野のような風景の写真を見せられたのですが、これを見たいと思って来たということでした。しかも、在住している方じゃなくて、旅行でいらっしゃるお客様で、みんなここをアップすることを目的に来て、次の日は京都に行くと言う話をしていました。他のお客様でもSNSを見て来ている方が多く、後は温泉に来るお客様もいます。皆さん大体英語は通じる、中には日本語が少しわかる人もいるということで、何とか対応しています。バスの時刻を知りたい人が多いこともあり、こちらで事前に石狩から札幌に行く時刻表を抜き出して英語表記のものを作ったほか、その都度その都度出てくる問題に対して対応しているのですけれども、毎日のようにお客様がいらっしゃるの、やはり忙しいですね。パンフレット等は今英語で対応出来るものがなくて、唯一、石狩市のデジタルマップが多言語対応ということにはなっていますが、そこに行き着くまでに英語の表記があるわけではないので、折角いらっしゃるお客様に、もう少し石狩のこと知って帰っていただければ良いなと思います。

あと、バスの行き来が少ない場所なので、1時間に1本のバスもない時間帯もあり、そういう時間帯にぶつかってしまったお客様からは、大体タクシーを呼んで欲しいとお願いされます。ただ、タクシーも夕方の時間帯になると、なかなか捕まらず、観光協会では通常タクシーが来るまで10分から15分かかるのですけれども、この間は1時間くらいかかってしまうケースがあり、この辺りがもう少しスムーズにいけば、より海外のお客さんを積極的に受け入れられるのかなと考えます。

私達は割と最前線といいますか、お客さんに接することが多い場所だと思うので、自分たちで出来る範囲の対応はしていきたいと思いますが、いずれは市内の看板ですとか、そういったものもインバウンド対応ということで考えていかなければいけないのかなと思います。

#### 【角川会長】

はい、ありがとうございます。すすきのとか狸小路のインバウンド、すごかったですよね。旧正月ということもありますけど、どこの国かと思うくらい沢山いましたよね。それで相当お金を使っているみ

たいで、どんどん石狩市や周辺に広がりつつある。しかも、我々がいつも見ているような、なんてことではない海岸線とかを注目して見ていただけるということで、ビジネスチャンスも沢山ありますよね。一工夫すれば、お金を落としていっていただける仕組みは沢山あると思います。観光協会にそれを全部任せるわけにはいかないの、みんなで盛り上げていければ良いなと思います。

今日、その周辺のこと、厚田のお話も聞きたかったのですが、小山委員はいらっしゃらないので、浜益のお話で、浜益の産業、観光政策について、白井さんから最近のお話や期待する部分をお聞かせいただきたいと思います。

#### 【白井委員】

浜益は昨年12月31日で最後1件残っていた商店もなくなり、セイコーマート1店舗と、あとは生協の移動販売が来てくださるので、なんとか命を繋いでいるような状態になってしまいました。野生動物、主に鹿がもう増えすぎて、個人の力ではもうどうしようもないくらいで、果樹園なんかもやられましたし、そのあたり、もう少し何か市の方で助けてくださると農家の方も助かるかなという現状です。

また、海水温の変化によって、サケが去年不良でした。ハタハタも来なかった。ホタテも稚貝のうちに死んでしまうような状況になっておりまして、気温の変化はどうしようもないことですが、漁業に関しても過渡期なのかなという状態です。

やはり個人ではどうしようもない部分が多いので、行政に全部お任せということではなく、色々な方の知恵をお借りしないとやっていけないような自然状態になっているので、色々な意見をいただきたいというところです。

#### 【角川会長】

確かにハタハタは獲れなかったですね。

#### 【白井委員】

そうですね。知り合いの漁師さんは5匹だけしか獲れませんでした。

#### 【角川会長】

厳しいですね。私達、青年会議所のOBでハタハタの会を毎年やるのですが、全然ハタハタがなかったです。自然環境は我々のコントロールが難しい話ではありますが、その辺り事務局のほうでお話ありますか。

#### 【事務局（宇野課長）】

ありがとうございます。いずれも、今お話いただいたことについては非常に死活問題になる、重要なことだと思っております。

それぞれ、鹿の対策ですとか、漁業の関係ですとか、そこは各所管で課題や今どういうことが起きているのかという部分は当然承知をしているところで、おそらく何もしていないという状況ではないとは思いますが、あらためて今委員からご意見あった部分について、各関係課にお伝えをしたいと考えております。例えば海水温の部分につきましては、ご存知のとおり、長い時間をかけて今の状態になっている分、これから長い時間をかけないとなかなか元に戻らないという部分もありますので、白井委員がおっしゃったように、行政が汗をかくということは当然ですが、漁業者の皆様とか市民の皆様から、様々な知恵を結集して対応していかなければならないと考えてございます。

### 【事務局（小島部長）】

補足をさせていただきますと、今委員がおっしゃられたとおり、地域における課題は非常に深刻だということをおも承知しております。お話をさせていただいたような対策は当然して参りたいと思いますが、昨年来色々と地域の方とお話しているイメージで言いますと、やはり職員がしっかり現場を見ると言いますか、現場に赴いてお話を聞くということが非常に大事ななということを感じておりますので、そういったこともしっかりやっていきたいと考えていることを補足させていただきます。

### 【角川会長】

本当におっしゃるとおりで、現状を見て、現場を見て、ハタハタが5匹しか取れなかったなどという事実はしっかり認識をすることが大事ななと思っています。

続きまして、戦略目標5について、京セラコミュニケーションシステム株式会社の尾方様に伺いますが、この戦略目標のデジタルを活用した教育や人材育成の項目につきまして、今後求められている仕組み、技術、そのあり方、こういった部分についてご意見をいただけますでしょうか。

### 【尾方委員】

今回からデジタルの部分が各分野に入っており、色々なところでデジタル技術を活用するみたいなものが入っていますが、やはりそれぞれでやるよりも、まとめて考える、合わせて行う、ということが必要だと思います。色々な情報発信するにしても、バラバラやるよりもまとめて行ったほうがより効果が出やすいことを踏まえて、デジタル活用する部分についても、もう少しまとめて推進する必要があるのではないかと思います。

お話しのあった人材育成の部分に関して言いますと、我々もそうですが、石狩にはデジタルの事業者が集まっておりますので、そういった事業者が、地域の方々の意識や知識を高める集まりや教育などに参画できるような仕組みがあれば、石狩に最先端の技術を持つ事業者がいるという部分はメリットになると考えますし、そういった取組ができれば、より特色のある人材育成事業になると思います。そういった部分もあるので、我々も色々とご協力していきたいと思っています。

### 【角川会長】

ありがとうございます。データセンターをイメージすると、石狩もそういった企業が増えてきたなと思います。

ただ、全てデジタルで処理・対応するということと違う方向性も出てきており、高齢者の方などに対して、よりバランス感覚をもった対応が必要かなと個人的には思います。

では先に進めさせていただいて、戦略目標6ですが、こちら青年会議所に所属されていた住吉委員に聞きたいのですが、若者の定住や移住について、最近聞いたことや期待する部分をお話いただきたいと思っています。

### 【住吉委員】

この部分についてお話す前に、「いしかりデー」の実施はとても良いものだと思います。ずっと僕がやりたかったことで、年5回と言わず、毎月いしかりデーを実施いただいて、こどもたちに石狩の魅力を染み込ませて欲しいです。

それで戦略目標6について、戦略目標2にも関わることですけれども、こどもが石狩で生まれて、待機児童ゼロで幼少期の施策は網羅しています、小学校に行くと寺子屋とかも対応しています、ここは良いと思います。ただ、先ほどご意見もありましたが、中学生、高校生の手当てが少し弱いと思います。

また、僕ら企業の立場として、地元の若者を雇いたいとなった時に、やはり大学とか専門学校とかがあればより受け入れやすくなります。石狩の若者をうちの会社に入れたいと思った時に、藤女子大学だと業種が合わなさすぎてダメです。そうすると次に高校生が対象になります。ですが、高校生が相手となると、僕ら企業としては、うーん高校生か、となってしまいます。その間に入る専門学校なり大学とかがあれば、もっと地元の若者を取り入れたいと企業側は思うはずで、ぜひとも目標2に絡むことだと思いますが、是非とも教育の、生まれてから、就職、亡くなるまで全部石狩で過ごして欲しいという目標に繋がりますので、その人生を途切れさせないよう、石狩で手当てして欲しいなと思います。それによってこの戦略目標6にある石狩に戻ってきたいと思うというよりは、もう石狩にずっと住みたいと思うような人が多くなり、地元の人たちを受け入れる企業が多くなるという、その一連の流れが仕組みとして、目標としてあれば、少しは市が良くなるかなと思います。

#### 【角川会長】

素晴らしい構想ですね。人生を途切れさせないということは、すごく良いと思います。  
では事務局からご回答願います。

#### 【事務局（宇野課長）】

まさに私どもが目指す方向性を、簡潔にお話いただいたと思っております。  
総合戦略は、石狩でこどもが生まれ、育ち、そして石狩で就職をし、まちづくりを支えていただく、これを目標にしている部分でございます。この目標に沿って、それぞれの戦略目標、それから具体的な取り組みについても、今後5年間の中で基本的な考え方を推進しつつ、具体的な政策の中で充実・強化を図ればと考えてございます。目指すところは、住吉委員がおっしゃったとおりであり、市としても同じ方向を見ているので、よろしく願いいたします。

#### 【角川会長】

ありがとうございます。それでは駆け足で戦略目標1から6までご意見いただきましたが、全体を通して、船木先生と高宮先生にそれぞれご意見、ご要望等を含めてお話ししたいと思っております。  
まず船木先生からお願いします。

#### 【船木委員】

藤女子大学の船木です。  
全般的に皆さんからお話聞いていて、いくつか思ったことがあります。

1つは、まず港湾を中心に新たな進出企業を増やすということが大目標だと思いますけれども、進出された企業と石狩のまちづくりの関係はどうなっているのかということです。また、何を期待して進出してもらおうのかというのが、総合戦略の中に記載されていないということです。企業側は何がメリットで、石狩市は何がメリットなのか、どういうことが起こるのかまとめる必要があると思います。

先日企画課のお仕事と、うちの学生の活動で関わりがありましたが、新港地域に誘致された企業の従業員の皆様は、半分以上が石狩市に住まず通勤してきているということが判明しました。その意味では、企業は立地場所として新港地域を求めているだけであると学生は受け止めていて、石狩に住んでいただくことの企業の認知度が低いという声でした。このことに対し、新たな戦略としてどのような反映がされるのが気になり、ご意見申し上げるとというのが1つです。

2点目、インバウンドの話がありました。例えばニセコのように、外国の人たちが沢山来て、食べてもらって、泊まってもらって、その方々に向けてニセコに住んでらっしゃる方が働く、ということを目指しているのかどうかです。

若い頃、私はスキーをしていた際、ニセコに行きたくて憧れていましたけど、今は行きたいと思いません。石狩市がインバウンドとして目指しているのが、ニセコとか富良野といったところなのか、お金を落としてもらうという発想で見ているのか、どういうイメージでいるのかということが見えません。石狩市を訪れる方が増えることは良いことですが、訪れてもらって、何がどうなるのかということがもう少し見れば、誇りを持った石狩となっていくのかなと思います。外国人に居住してほしいのか、それとも来てゴミを落とすか、お金を落とすか、そのために石狩市民は手となり足となり対応するのか、といったところが気になりました。

3点目、子育てのところですが、子どもを育てるということで、おとなの責任ですが、私は社会教育委員として教育プランにも携わさせていただきまして、その中で相変わらず子どもの数は減っているものの、不登校とかいじめの数値は右肩上がりだということを知りました。このことを踏まえると、子どもの育ち、子育てについて、子どもが減っているのに数字は拒否する、不登校の子どもが増えているという状況は見逃せないと思います。子どもを育てやすい環境をどうするのかといった戦略目標の中で、普通の子どもに育ててほしいという視点はあるが、そうならないという実情をどうにかしないと、子どもが減り、不登校やいじめがさらに増える、ということにならないか心配だなと思いました。

#### 【角川会長】

ありがとうございました。このことについて、事務局からご回答願います。

#### 【事務局（宇野課長）】

まず、1点目の企業の進出に関して、この総合戦略の大きな目標、大きな方向性としたしましては、人口減少を緩和して持続可能な地域社会をどう作っていくか、そのために、人の流れを作る、仕事を作る、魅力的な地域づくり・地域の魅力を向上させる、そして結婚、出産、子育ての希望を叶える、4つの大きな目標がございます。それに沿って考えますと、企業様が進出することによる雇用の創出、若い人達が石狩で働くことができるという流れを考えてございます。

また、2番目の観光インバウンドに関して、これも総合戦略の大きな目標としては、人口の維持という部分に関係し、関係人口の拡大、創出、拡大という部分に当てはまりますので、外国人の観光客であっても、今後、観光から関係人口へと発展することを考えますと、こういった動きも大きな流れとしては歓迎かなと考えてございます。また、石狩の地域特性というものが国際的にも知られる、認知されるということも、地域のブランド力と言いますか、そういった向上に役立つと考えます。

一方で、今課題になってございます、オーバーツーリズムに対し、どうバランスを取っていくのかというところは、イメージとして持っていないかとは思っていますが、総じて総合戦略の観点から言えば、拡大はよろしいのではないかなと考えてございます。

また、3番目の子育てに関して、こちらについては子どもの権利条例でもうたっておりますように、どういう環境でどういう立場であっても、子どもはこどもらしく、子どもを尊重して暮らせるまちというところが大きな目標であり、それに沿った様々な保育、教育の政策というのがそこに連なっており、その部分の層を厚くしながら、いかに「こども真ん中まちづくり」で市としてこども政策を推進していくかということでございます。ただ一方で、先生が指摘されたような、いじめや不登校、これは非常にセンシティブなことで、個人的な事情やデリケートな部分がございますので、こういったところをき

め細かく、行政はじめ関係機関のサポートをしながら、こどもがこうしたいという願いを叶えてあげられる体制を作っていくことが大事と考えてございます。

もう1点、企業の進出について、確かに企業様にしてみると、進出をする以上当然労働者が必要です。しかし、企業からすれば、人手が確保できれば石狩市民であるかそうではないかというところは問わないということはあるかと思えます。ただ、総合戦略の観点で言えば、石狩に住んで、石狩で働いていただく、ということがやはり目指すべきことかなと思えます。石狩で生活し、石狩の企業で働き、まちづくりを暮らしとお仕事、両方の面で支えていただくということが、持続可能な地域づくりにとっては非常に重要と考えてございます。

私どもとしても、第2期もそうでしたが、第3期からこういった観点をより大事にしたいと考えてございまして、これまで暮らしの観点から市でのみ対応していた首都圏での移住相談会につきまして、手上げをしていただいた市内6社の企業様と協力し、昨年11月に移住相談会を合同開催しました。これについては、先ほど申し上げました石狩市に住んで働いていただくという方をどう増やしていくかを目的とし、首都圏からの人の流れを作るという意味から、暮らしだけではなく仕事の情報をセットで提供することで、移住の心理的ハードルを下げつつ背中を押せる、という効果が見込め、企業から見れば人材が確保できるというメリットがありますので、まずはそういう効果を生みたいと考えてございます。引き続き第3期総合戦略においてもそういった活動を進めてまいりたいと考えておりますし、藤女子大学の学生様とは、どうやったら石狩で育った人たちが石狩で働く、あるいは石狩で起業していただけるのかということについて、今後とも研究させていただけたらなと思えます。

以上でございます。

#### 【角川会長】

続きまして、高宮先生からお願いします。

#### 【高宮委員】

1つ目は、石狩というまちの素晴らしさをもっと訴えて良いということです。

私はもう40年ぐらい石狩に住んでいますけれども、いつも言いますのは、ここは便利だということです。やはり、インフラがしっかりできている。例えばスキー、海、山、どこへ行くにしても高速道路が近く、幹線の国道が入っており、こういった資源が総合戦略を支えていくのだろうと考えています。単なる人口だけじゃなくて、資料にもそういったことも示す必要があるのかなと思えます。この総合戦略は市民だけでなく、色々なところに出ていくと思いますが、そうすると、このまちはどういう資源がある、人材もある、大学もある、足りないものはあるでしょうけれども、今ある資源をしっかりと出すことも必要ではないかと思えます。

もう一点は、戦略目標1から6まで書いていますけれども、それぞれはしっかりと書いてありますが、経済政策どうなのか、環境問題どうなのか、エネルギー問題どうなのか、こういう切り口で来た時にどういう対応ができるのか、この辺はしっかり備えないとならないのではと思います。確かにわかりやすく示していますけれども、地域が置かれている色々な問題をどう解決できるのか、という切り口でも見られるようにしておく必要があるのではないかと思います。

それから、本当にこれが総合戦略なのか、全部網羅しているのかということもチェックする必要がありますかと思えますし、私ども本日見させていただいたのは、字面のみであります。色々なインバウンド事業書いてありますが、どこの行政もそうですが、いざ実施するとすると、財源はあるのか、一体どうなのかということです。私どもはKPIという形で、行政の事業を見ているのですが、これは机上であり、確実に実施されていくためのある程度の財源的なものも確認しておく必要があるのではないかと思います。

す。これは難しいことだと思いますけれども、私は専門家として、そういったところも見ていく必要があると、今は確認しませんけれども、そういったことも大事な点ではないかと思えます。

もう1点は、石狩に中心地がないということです。子どもたちが石狩とはどこですかと言ったら、昔はみんな生協の前に行ってお祭りなどをしておりましたけども、どうもへそになるものが無いな、というところがあります。市を中心とした、都市計画や都市戦略と言いましょか、そういったハード的なものは今難しいですけれども、そういった10年、20年先を見た市の中心作りもあって良いのではないかと感じました。

以上でございます。

#### 【角川会長】

ありがとうございました。このことについて、事務局からご回答願います。

#### 【事務局（宇野課長）】

前半は石狩市のインフラも含めた高い評価、そして後半はこうすべきであるという的確な指摘でございました。

前半部分の様々な資源および資源の活かし方という観点でございますけれども、高宮先生がおっしゃる地域資源、インフラについて様々な評価をしていただきましたが、一方、私どもで毎年市民アンケートを実施しておりますと、その中では叱咤激励と言いますか、もう少しこうして欲しいというご指摘もございます。私どもとしては、総合戦略は人口減少緩和、地域経済の持続的発展を目的としたものとして、市民の皆様からのアンケートの部分を踏まえ、不足部分をどうやってカバーしながら進めていくかを考えているところです。

また、お話にもございました経済、環境、エネルギーといった部分につきまして、総合戦略は第1期、第2期からの継承したものであり、個別の戦略も継承しているところもございます。今後核となる部分の考え方につきましては、この総合戦略を含めた各計画の上位計画であります総合計画を来年度から2か年かけて策定予定であり、この中であらためて今後市が向かう部分の色々なキーワードを、議論ができるのではないかと考えております。また、財源につきましては、高宮先生ご指摘のように、見通しという部分は非常に難しいところがありまして、財源設定というのはその時々の財政状況、それから重点の優先順位、そういったものを見極めながら、どの部分をどう取り組んでいくかというところは議論されるものと考えてございます。

石狩の中心地の部分につきましては、ご指摘のとおりでございます。市役所の向かい側にあります敷地、今は何もないですけれども、そこが中心核ということで、将来的な石狩の顔になる部分であり、整備予定地でございますが、なかなか現状目に見える形ではありません。庁内としては企画課が所管であり、私どもの方で色々情報を収集しながら行ってございますが、その時々大きな社会経済情勢というものに左右される部分もございまして、目に見える形ではありませんが、引き続き、あの場所を中心地としての考え方がございますので、検討を続けたいと考えてございます。

以上です。

#### 【角川会長】

図書館とか子ども未来館の辺りは、私の散歩コースでして、ロケーションも含めてあそこが中心地だったら面白いと私も感じております。

それでは今回も金融機関3行の委員の皆様にご参加いただいております。

今までの話も含めて、市の施策についての感想とか、地域経済の動向なども含めて、おひとりずつお話しただけだと思います。

まず林委員にお願いできますでしょうか。

#### 【林委員】

最近の事業者関係から聞こえる1番の悩み、1番困りごとは、人が足りない、人手不足という相談です。そんな中でも、外国人の労働者を受け入れしている会社もあって、外国人の方が口座を作られるケースも増えてきている状況にあります。最近、そういう流れが多くなってきており、5年、10年と見ると、労働人口の減少が続く状況においては、外国人の受け入れは増えていくのではと思います。

そうすると、市内で外国の方とすれ違ったりすることが今後は多くなりますので、今後の市としての外国人の受入体制をどう構築していくべきなのかというのは考えるべきだと思います。外国人が泊まる、泊まるという生活する場所ですね、それを非常に求めている会社も多く、アパートまではいかなくても、そういったものを建てたいとか、実際に計画してらっしゃる会社も多くなってきているのかなという印象を受けましたので、ご報告させていただきます。

観光客の件ですが、雪を見に行っただのかかわらないですけども、旅行雑誌に出てないような場所でもいらっしゃる方が最近多いようでして、石狩はロケーション的には素晴らしいところが多いので、もしかしたら団体の方が来られるケースも多くなるのではないかなと思います。

最後に、交通の件ですけども、バスも人手不足というか、運転手がいなくなってきたり、本数も減ってきており、当然何本も通っているところもありますけども、少し離れてしまうとバスが全然ないという状況であり、新港地域でもバスが通っていないような状況ですので、そこを打破して、一緒にどんどん通いやすいような体制作りができたら良いなと思っております。新聞でもありましたが、ロープウェイみたいなのが出来たら乗ってみようと思われ方も多くなるのかなと思うと、まだまだ希望もあると思っております。

私を感じた点をお話させていただきました、以上です。

#### 【角川会長】

ありがとうございました。続きまして、石田委員をお願いします。

#### 【石田委員】

今、北海道信用金庫の林支店長がおっしゃったとおり、私どもの方でも、普段お客様のところにお話を伺うと、外国人労働者を2025年4月から雇うことにした、というお声が多く聞かれます。新港地域を中心とした広い土地と、札幌圏も含めた労働力の確保のしやすさ等もあり、企業も沢山進出されてきたと思いますが、働き手の確保が難しくなってきたというお声をすごく聞くようになったと感じております。今後進出企業をさらに増やしていくと考えると、そういったところが1つ課題になってくる可能性もあるかなというところで、外国人労働者の生活のしやすさみたいなサポートを市でも考えていただけると、労働者の確保を企業もしやすいのかなと思います。

あと、非常に業績を伸ばしている企業様もいらっしゃって、新しく倉庫を建てたい、労働力の制限がある中でロボットを導入したい、といった前向きな意欲のある事業者はいらっしゃいますが、最近は建築費等も高くなっており、投資に踏み切れない部分もありますので、今も新たに進出していく企業や投資に対しては市でサポートされていると思えますけれども、そういった部分を引き続きやっていただきたいと思います。

また、私にも高校2年生のこどもがいますが、就職するか進学するかといった時に、なかなか職業に触れる機会がなくて、総合戦略にはインターンシップについて書かれておりますけれども、小学生、中学生、高校生、それぞれの段階で色々な職業に触れる機会というのがあるとすごく良いのかなと思います。先ほど、石狩に専門学校や大学があれば良い、学べる場が設けられれば良いということでしたけど、資料の48ページによると運輸とかの特化係数が高いということで、そうすると自動車整備等も必要になりますが、ドライバーや自動車整備員が特に人手不足とおっしゃっている企業さんが多いと思いますので、自動車整備ができる若者等がこのまちで育つようになると、生まれてから働く場までというような繋がりが作りやすいかなと議論を聞いて思いました。

以上です。

#### 【角川会長】

ありがとうございました。続きまして、中野委員をお願いします。

#### 【中野委員】

北洋銀行の中野です。沢山項目があり、全部できると素晴らしいな、頑張っていたきたいなと思います。ただ、若干総花的な感じはするので、この中から優先順位をしっかりと決めてやっていけると良いのかなと思って、全体を見ていました。

石狩市は魅力的で、色々なものがありますが、縦に長くて地域性が非常にあるので、政策をする意味では非常に難しいと思っています。その中で、2つ気になっていることがあって、1つ目は、先ほど林支店長からもありましたけど、交通政策はとても大事ななと思います。

全体、拝見させていただいた時に、ある程度の地区毎、エリア毎の政策を市の皆さんのところで考えてらっしゃるのだろうなというのを見受けられて、多分、浜益や厚田などは、農業、漁業と、観光が対象なのかなと思い、新港地域は産業の集積であって、花川や樽川はそこに人を供給するための労働者が住むところ、といった色分けが概ね感じ取れますけども、そこからそれぞれの地区、地域、産業に対してどうやって人を運んでいくかという交通政策抜きには語れないですが、この部分は非常に石狩市が弱いところだと認識しているので、そこを今後うまく考えていただくと良いなと思います。よく札幌とのアクセスを非常に重視しがちになり、それも大事だと思いますけども、これは僕の個人的な考えですが、より大きな都市、より便利な都市とのアクセスを強烈に良くすると、間違いなく人はそちら側に流れると僕は思っているので、ある意味、石狩市内の交通がしっかりしているからこそ、石狩市に人が定着して、そこで色々なものが大きくなっていくと思います。市内のエリア毎に分かれていて、イメージはそんな感じで掴めるのかなと思いますが、そこを繋げる交通政策はとても大事ななと思っています。

2点目は、産業の集積のところで、特に環境、地域資源の部分で、エネルギー関連産業とだか臨海産業、これはGHG（Greenhouse Gas=温室効果ガス）に関わってくるところであり、風力発電事業などだと思いますけども、感想としてはこれのスタートは本州の大手資本で、なかなか石狩市に落ちてくるものはないと思います。ただ、風力発電事業は50年ぐらいでしたかね、そのぐらい続く中で、その後のメンテやアフターなど、その部分で地元で事業が落ちてくるものと考えたとき、その事業を地元業者さんをお願いしますとなる場合に、もちろんそこに関わるスキル、技術というのも大事ですけども、もう1つ大事なものがあって、脱炭素、GHGに関わる意識というのがとても大事だと思っています。風力発電でいえば、事業者さんがそこに意識の低い企業に仕事を落としていくのかということ、僕はノーだと思います。そうすると、今の石狩市の事業者さんの状況でいくと、その感度っていうのはまだまだ高くないだろうなと思います。それは多分、市民の皆さんもそうではないかなと思いますし、きっと石狩市の

思っている方向と、市にある地元事業者さんとか住民の皆さんとの意識の乖離がまだまだあると思うので、洋上風力も含めて10年とか先になると思いますけども、この時間の中で乖離を埋めていくようなことができれば良いなと思いますし、その辺は当行も北海道銀行様も北海道信用金庫様も関連する部署があるので、是非、地元金融機関にご相談いただければお手伝いできることがあると思いますので、お声かけていただければと思います。

以上です。

**【角川会長】**

皆様沢山のお話をいただきまして、ありがとうございました。丁度お時間になりましたが、最後に全体を通してということで、北海道石狩振興局地域政策課の杉村課長よりお話をお願いします。

**【オブザーバー（北海道石狩振興局地域政策課長 杉村氏）】**

今回、皆様の意見を聞いて、私も勉強させていただきました。石狩市は管内で唯一、結婚支援制度を実施しており、他のこういう会議を出た際に、子育て施策は皆さんやっているけども、結婚についての支援制度はないよね、という話があり私が調べたところ、管内で石狩市しか結婚支援制度を実施しておらず、そういった部分は誇れる部分と皆さん感じているのかなと思います。無いものを見ると、どうしても隣の芝生は青く見えますけども、実は隣から見ると自分のところの芝生も青いことが多いです。そこを意識していただいて、自分たちが気づかないことでも、他から見ると優れている部分は多いと思いますので、そこを市民の皆さんとともに、シビックプライドという表現が良いかどうかわかりませんが、そこを育てるような取り組みを進めていただければ、自ずとまちに人が定着していくと思いますので、振興局としてもその施策の入口をやらせていただいておりますので、一緒にやっていただければいいかなと思います。

**【角川会長】**

ありがとうございました。それではお時間になりましたので、事務局よりご連絡等をお願いします。

**【事務局（宇野課長）】**

皆様、どうも長時間ありがとうございました。

事務局より、2点ご連絡します。

1点目、本日の議事録につきましては、会長に確認いただいたのち、皆様にご報告いたします。

2点目、今後のスケジュールをご連絡いたします。第3期総合戦略について、本日いただいたご意見を踏まえ、必要な修正等を行い、今月20日に本部会議を開催し、3月の総務常任委員会での報告などを行い、3月までに策定となります。

**【角川会長】**

それでは以上を持ちまして令和6年度第3回総合戦略推進懇話会を終了します。

本日はお忙しい中、ありがとうございました。

令和7年3月10日 議事録確定

石狩市総合戦略推進懇話会 会長 角川 幸治